

保 健 体 育

第1節 概 要

昭和38年度は、オリンピック東京大会を控えてのスポーツの振興強化と併行し、保健教育の充実とさらに本年度は、特に、国の施策に呼応し、ミルク給食の完全実施を目標に事業をすすめてきた。以下これらの事業の概要を述べる。

1 スポーツ関係施設の拡充整備については、県営体育館建築は実質的に工事作業に着手し、39年3月末日までには70%の完成をみる予定である。

また、現在の漕艇場、スキー場、スケート場、野球場陸上競技場などについてもそれぞれ整備をはかった。

2 スポーツ選手の強化については、国体の成績向上を目標にし、昭和38年度の山口国体においては、天皇杯第15位の成績をおさめることができた。

また、オリンピック東京大会の候補選手が11名にのぼり、日本代表候補の誇りをもって努力が続けられている。

この間、各競技種目とも強化宿泊練習会や指導者自身の研究会を開催し、また高校スポーツ研究校を設置したほか、高体連、中体連の運営にも助言をあたえ、その適正をはかった。

3 一般住民および青少年スポーツの普及振興については、各市町村の体育指導委員の活発な活動により各般の行事が円滑に運営実施された。特に、スポーツ教室の開設数が増加し、地についた指導と運営がなされるようになった。また、各市町村ともスポーツ振興のための組織づくりが研究検討されたことはスポーツ振興のための基盤をなすものとして効果をあげつつある。

4 スポーツ少年団の結成については、オリンピック東京大会開催を契機として本県においても努力をなしてきたが、39年に入ってから、特に聖火リレーコースに関係する市町村にこれが結成を促進した。現在330有余に達している。

5 学校体育の充実振興については、例年の本県独自の体力テスト実施要項により小学校を対象に実施し、全国との比較によりその立場を明らかにしその起因を探究し、指導上の諸問題を計画的に解決する基礎資料を得た、中学校については文部省より発表になった体力テストと実験的に実施した。

学校体育の振興の基盤を体育研究学校におき、16の学校での研究が地域全体に滲透することにつとめ、成果をおさめた。また、教職員の資質の向上のため、水泳研修会、各運動領域の実技、スキー実技等の講習会が活発に開催された。

6 スポーツ振興審議会については、本年度で3回の会

議を開催し、本県のスポーツ振興の基本方針とその具体策を明確にし、1月20日、県教育委員会あてに答申した。今後はこの答申により、さらにこれが実現に努力する必要がある。

6 学校保健については、児童生徒が学習しながらもっている学校病の撲滅対策を図るとともに、保健環境の整備、指導者の資質の向上を図った。また、教職員の健康管理では、特に、結核の健康診断の結果、有所見者について、精密検査及び面接指導を行ない健康管理の強化をはかった。最近学校における事故災害が続発する現状なので、交通事故防止、水死事故防止など学校安全の管理と教育に努力した。

7 児童生徒の体位の向上の要因は、食生活が基盤であるところから、学校給食の普及充実、特にミルリ給食の普及に努力し、その効果があらわれた。

なお、本年は東日本給食研究協議会が開催された。これにより、学校における給食指導がさらに向上した。

第2節 学 校 保 健

1 第11回福島県学校保健研究大会

7月16・17日の2日間、相馬市立桜ヶ丘小学校において開催した。参加人員約1,000名、開会式・表彰式・研究発表・講演・分科会などあり、学校保健の理解と深化に役だった。特別講演「学級における保健活動の進化」と題する金沢大学教育学部名誉教授村上賢三氏の講演は学校保健関係者はもちろんのこと一般教員に対し深い感銘をあたえると共に、今後の本県学校保健の推進について大きな示唆をあたえた。

研究主題は「学級における保健活動の進化をはかるにはどのようにするか」とし、校長・保健主事・養護教諭など11分科会に分かれて、各職域別に、それぞれの立場から研究発表ならびに研究討議がおこなわれた。

なお、本大会に県内の学校保健功労者、相馬郡鹿島町立八沢小学校長外10名が、万雷の拍手の裡に表彰され、同時に学校安全優良学校として、郡山市立小原田小学校外10校が、また、相馬郡小高町立福浦小学校長伊賀好氏外2名、6団体の表彰が行なわれた。

本会の研究集録を編集し、その内容を県内各学校関係者に配布した。

2 学校保健講習会（学校病）

児童生徒が学習しながらもっている病気は数多くある